

I C D - 1 1 改訂に関する動向について

1. これまでの動向

平成 2 2 年

4 月 内科TAG対面会議 (於: 日本)

内科TAG消化器ワーキンググループ対面会議 (於: 日本)

6 月 生活機能分類グループ (FDRG) 中間年次会議 (於: スペイン)

9 月 腫瘍TAG対面会議 (於: フランス)

改訂運営会議 (RSG)、i-Camp 2 (於: WHO)

1 0 月 WHO-FICネットワーク年次会議 (於: カナダ)

1 1 月 国内内科TAG検討会

国内腫瘍TAG検討会

第 1 0 回社会保障審議会統計分科会疾病、傷害及び死因分類専門委員会

2. 今後の予定

1 2 月 第2回WHO伝統医療国際分類会議 (於: 東京)

枠 WHO側の取り組み

Internal Medicine TAG の状況について

(第9回ICD専門委員会以降)

1. 内科 TAG 国際会議の開催

- ・ 第3回内科 TAG 国際会議 2010年4月7日～8日
於：東京国際フォーラム（協力：日本内科学会）

2. 各WGの進捗状況

- ① 腎臓WG : 資料1-2-1①
- ② 循環器WG : 資料1-2-1②
- ③ 呼吸器WG : 口頭報告
- ④ 消化器、肝・胆・膵WG : 口頭報告
- ⑤ 血液WG : 口頭報告
- ⑥ 内分泌WG : 資料1-2-1⑥
- ⑦ リウマチWG : 資料1-2-1⑦

Current Status of WG Formation

参考

WG	WG members	WG members	Ed. Manager
Nephrology	Y Iino (JP) L Stevens (USA)	Approved	-
Rheumatology	J Kay (USA) M Harigai (JP)	Approved	AW-Dahl
Gastroenterology	P Malfertheiner (FRG) S. Miura (JP)	Approved	J Akiyama
Hepatology	EB Keefe (USA)	Approved	T Tomiya
Respiratory	DH Ingbar (USA)	Proposed	-
Hematology	W Fibbe (Netherland)	Approved	-
Endocrinology & Metabolism	A Shimatsu (JP) C Saudek (USA)#	Proposed	-
Cardiovascular	BJ Gersh (USA)	Approved	T Kohro
IM-TAG	K Sugano (JP) R Franklin (UK)	J Nakaya K Takabayashi	J Rust*

Preparation for ICD-11 alpha drafting

WG	F2F meetings/Teleconference (supporting organization)	Draft Plan
Nephrology	Y/Y (KDIGO)	Submitted
Rheumatology	Y/Y (JRS/EULAR/ARA)	Submitted
Gastroenterology	Y/Y (JSGE)	Submitted
Hepatology	Y/Y (JSGE)	Submitted
Respiratory	N /N (JSRD)	Not started
Hematology	Y (ASH/ESH/JSH)	Submitted
Endocrinology & Metabolism	N/N (JES)	Start working for the draft
Cardiovascular	N/N (JCS)	Start working for the draft

ICD-11 revision, Renal Working Group(Renal WG), in Internal Medicine TAG

日本医科大学 飯野 靖彦

IM-TAG の WG の一つである Renal WG は、腎疾患（主として N 分類の分野）の改訂を行っている。Co-chairperson として、飯野靖彦とボストンの Lesley Stevens が任命され、日本の厚労省とアメリカの Kidney Foundation の援助を受けながら活動を行っている。

活動内容（2010年）

- 1) 毎月1回の Renal WG の電話会議。
- 2) アメリカ腎臓学会（ASN in Denver）期間中の検討会開催
（2010年11月20日、3時間）。
- 3) 変更案の WHO への提案。

変更案の主な内容は、AKD（AKI）と CKD の組み込み、糸球体腎炎疾患名の整理、腎移植の合併症の組み込み、のう胞腎の分類、腎形態変化分類の整理、電解質異常の組み込み（Na、K、P、Ca—特に CKD—MBD を新たに設ける）、などの検討を行っている。

【循環器】「ICD-11循環器実務ワーキンググループ」参加学会一覧

学会名	氏名(敬称略)	所属名
日本心エコー図学会	赤石 誠	北里研究所病院 循環器内科
	瀬尾 由広	筑波大学大学院人間総合科学研究科 循環器内科
日本血管外科学会	小櫃 由樹生	東京医科大学病院
日本心血管インターベンション治療学会	中村 正人	東邦大学医療センター大橋病院
	石綿 清雄	虎の門病院
	原 和弘	三井記念病院
日本心臓病学会	佐藤 徹	杏林大学医学部 循環器内科
	谷口 貢	近畿大学医学部附属病院 循環器内科
	波多野 将	東京大学 循環器内科
日本脈管学会	宮田 哲郎	東京大学 血管外科
日本高血圧学会	今泉 勉	久留米大学医学部 心臓・血管内科
	植田 真一郎	琉球大学大学院医学研究科 臨床薬理学
	甲斐 久史	久留米大学医学部 心臓・血管内科部門
日本心臓血管外科学会	横山 斉	福島県立医科大学 心臓血管外科
日本動脈硬化学会	多田 紀夫	東京慈恵会医科大学附属柏病院 総合診療部
日本不整脈学会	松本 万夫	埼玉医科大学国際医療センター 心臓内科
	村川 裕二	帝京大学医学部附属溝口病院 第四内科
日本心電学会	加藤 貴雄	日本医科大学附属病院
	杉 薫	東邦大学医療センター大橋病院
日本胸部外科学会	塩野 元美	日本大学板橋病院 外科学講座外科二部門
日本超音波医学会	尾辻 豊	産業医科大学 第二内科
	増山 理	兵庫医科大学 循環器内科
日本心不全学会	北風 政史	国立循環器病研究センター
	朝倉 正紀	国立循環器病研究センター
	朝野 仁裕	大阪大学大学院医学系研究科 先進心血管治療学
日本循環器学会	高村 雅之	金沢大学附属病院 循環器内科
	神谷 香一郎	名古屋大学環境医学研究所
	尾辻 豊	産業医科大学 第二内科

下記の分類はオリジナルのICD10でなく、構造改訂案_100828.pdfの分類に基づいております

Disease of arteries, arterioles, and capillary

Disease of veins, lymphatic vessels and lymph nodes, not elsewhere classified

日本心臓血管外科学会

日本胸部外科学会

日本動脈硬化学会

日本脈管学会

日本血管外科学会

Hypertensive diseases

Hypotension

日本高血圧学会

Ischemic heart diseases

日本心血管インターベンション治療学会

Pericarditis

Endocarditis

Valvular heart diseases

日本心エコー図学会

日本超音波医学会

Pulmonary heart disease and diseases of pulmonary circulation

日本心臓病学会

Arrhythmias

日本不整脈学会

日本心電学会

Diseases of the myocardium

Heart failure

日本心不全学会

Other forms of heart disease

日本循環器学会

Progress Report form TAG Endocrine and Metabolism

1. Christopher Saudek先生(co-chairperson)の辞任

本年4月の内科TAG対面会議後に体調を崩され、残念ながら本年10月8日ご逝去された。

2. TAG Rare DiseasesとのTeleconference

2010年8月25日、TAG Rare DiseasesのSegolene Ayme博士、Ana Rath博士を交えて、Rare diseasesとEndocrinologyのオーバーラップに関する対処方針を協議した。Rare Disease TAGからの提案が既に行われ、iCATに反映されているため、それを土台としてplatformで個々の議論を行うことで一致した。

3. α ドラフトの進捗状況

TAG Endocrine/Metabolismのメンバーに、ドラフト案を投げかけている。
基本的な構造は、ICD-10に準拠する形が望ましい。

4. 今後の活動

早急にCo-chairpersonおよびEditorial Managerの人選を行い、体制整備する。

島津 章
(内分泌代謝分野 TAG)

第10回社会保障審議会統計分化会疾病、傷害及び死因分類専門委員会
WHOによるICD-10改訂(ICD-11作成)について
Rheumatology WGからの進捗報告

4. 内科 Topic Advisory Group 国際会議

平成22年4月7日～4月8日 東京国際フォーラム で開催された。Rheumatology の委員長として針谷が参加し、討議した。Rheumatology WG のそれまでの活動内容、平成22年度の face-to-face meeting の予定について報告した。

5. Rheumatology WG 会議 その1

1. Rheumatology WG としての意見を討議するべく、2010年6月の欧州リウマチ学会期間中にローマにて、face-to-face meeting が開催された。
2. alpha draft を討議し、大幅に改訂した。議長の Kay 教授から WHO にその結果を送付し、iCAT に反映された。

3. Rheumatology WG 会議 その2

1. さらに alpha-draft の内容を検討するべく、2010年11月の米国リウマチ学会期間中にアトランタにて、face-to-face meeting が開催された。
2. 改訂内容を、議長の Kay 教授から WHO に送付する予定である。

4. 問題点

1. WG の活動を支えるためには、米国リウマチ学会、欧州リウマチ学会、日本リウマチ学会からの資金提供が必要である。Kay 教授は昨年来、WHO にそれぞれの学会理事会に対して ICD-11 改訂の提案書および資金提供の公式依頼文を送るように申し入れているが、WHO は全く対応する気配がない。資金提供がなければ、WG としての活動をこれ以上継続することが困難な状況にある。WHO に公式依頼文を送るように内科 TAG としてご対応頂ければ大変有り難いと考えている。
2. WG としての提案内容が全て iCAT に反映されているわけではない。しかし、この点に関して、WG には全くフィードバック (反映できない理由、どうすれば反映させられるのか) されていない。Managing editor の一時不在もこれには強く関係していると思われる。

以上

厚生労働省国際ワーキンググループ協力員 (Rheumatology)

厚生労働省社会保障審議会専門委員 (厚生労働省国際疾病分類専門委員)

WHO Rheumatology Working Group member, Internal Medicine Topic Advisory Board for the revision toward ICD-11

東京医科歯科大学薬害監視学講座

針谷正祥

筋骨格系 TAG 活動報告（平成 22 年度前期）

専門委員（日本整形外科学会） 望月 一男

(1) 日本整形外科学会における今年度の新体制

望月の後任の日整会 ICD-11 検討委員会委員長は加藤真介先生（徳島大）が、石名田専門委員の後任の厚生労働省「疾病、傷害及び死因分類専門委員会」専門委員は望月が就任した。

(2) 筋骨格系 TAG におけるアルファドラフト確定までの現況

総合的に判断すると Musculo-skeletal TAG から WHO に対して本年 5 月に提出された案は、日本整形外科学会が作った素案が元になっているようである。

しかし、8つの Work Group の中には activity の乏しい WG が 2~3 存在するため、MSK TAG, Chair である Martin Sundberg（スウェーデン）は、WG の Head の更迭を含めた MSK TAG の組織改編を意図して、Co-chair である清水克時委員を通じて日本整形外科学会に協力を要請した。

これに対する日整会の対応は以下の通りである。

- 1) MSK TAG は WHO の承認を得た International な活動団体であるため、組織編成は地域のバランスを極力維持すべきであり、日本による一国が突出した形態では WHO からの信用を損ねる恐れが生じる。この観点から、時間をかけても WG の Head は地域性を考慮した、学問的にも世界的に高名な人材による編成が堅持されるべきである。
- 2) 各 WG の実働部隊としての協力は、これまで通り日整会は協力体制を維持する。
- 3) 第 3 回対面会議（11/13-14, 1/15-17：ロンドン）には清水委員の他に加藤委員長をオブザーバーとして派遣する。今後必要性が生じた場合は、WG の実働を担っている人材の会議への参加も検討している。

(3) 過去の経緯からしても、今後、1-2 週間以内に対応しなければいけない事態が発生することが予測される。このような際には、MSK-TAG に関連したことは清水委員を中心に、その他の件については里見和彦担当理事、望月専門委員、加藤委員長を中心に対応することとした。

以上

「精神と行動の障害」AGの報告

第10回社会保障審議会統計分科会疾病、傷害及び死因分類専門委員会委員
東京医科大学精神医学講座
飯森眞喜雄

第9回社会保障審議会統計分科会疾病、傷害及び死因分類専門委員会以降の活動状況は下記の1～4。

1. International Advisory Group for the Revision of ICD-10 Mental and Behavioral Disorders (AG) は平成22年6月21日～22日に開催され、現行のF0～F9の大枠をどのようにすべきかについて主に討議された。座長のHyman教授から草案が提出され活発な討議がなされたが、継続審議となった。
2. AGの下部組織であるFormative Field Study Coordinating Group (FFSCG) では、前回報告した「Study A および B」という、精神分野の改訂の主たる目標であるClinical Utilityの向上に向けた調査・研究が行われている。このグループには、日本をはじめ、メキシコ、米国、ブラジル、フランス、スペイン、ナイジェリア、中国、インドの9ヶ国が含まれ、Study A および Bは今年末で終了する。日本ではWHOから与えられた目標値には既に達している。
3. より高度な専門性が要求される分野として、「精神病性障害」「児童および思春期の精神障害」「知的および学習障害」「パーソナリティ障害」「物質関連障害」および「プライマリケア」の5つのワーキング・グループが活動しているが（前回の本委員会で報告）、このうち「精神病性障害」の第1回会議が平成22年5月10日～11日にディッセルドルフで開催され、FFSCGを代表して丸田が参加した。
4. WHOが世界精神医学会（WPA）と協力してICD-10の使用状況や問題点についてWeb調査を開始した（WHO-WPA Survey）。これに伴い、日本精神神経学会のICD-11委員会および国際委員会が協力して日本語版を作成し、学会員の中からat randomにまず500名を選んで調査への要請を行い、既に回答が始まっている。

次回のAG会議は平成23年2月23日～24日にWHO本部で開催予定である。

以上

眼科 TAG 進捗状況報告

眼科 TAG Co-Chair

柏井 聡

(国際眼科会議 ICD-11 作業部会長)

1. 第 2 回眼科 TAG 対面会議: 2009 年 5 月 4 日 12:30-17:00
米国フロリダ州フォート・ロダーデール市 The Hyatt Place Fort Lauderdale
via Conference Call: Dr. Robert Jakob (WHO)
討論事項
 1. The Issue of Hierarchy/Categorization:
 2. Avoiding Overlap:
 3. Editing Manager:
 4. Integration with SNOMED/Other Classification Systems
 5. Integration Global Burden of Disease (GBD)

2. i-CAMP: 2009 年 9 月 22 日～10 月 2 日
スイス国ジュネーブ WHO 本部
眼科 TAG 代表: 柏井 聡 参加

3. 第 3 回眼科 TAG 対面会議: 2009 年 10 月 26 日 13:00 - 16:00
米国カリフォルニア州サンフランシスコ Intercontinental Hotel San Francisco
via Skype: Dr. Robert Jakob (WHO)
i-CAT Platform の操作法の実践的トレーニング
Stanford Biomedical Research Team: Dr. Samson Tu, Ms. Jen Vendetti

4. 第 1 回 WHO-眼科 TAG 対面会議: 2009 年 11 月 16 日～18 日
スイス国ジュネーブ WHO 本部
合意事項
 1. Structure of the Ophthalmology section
 2. Disorders vs. Diseases
 3. Multiple diagnoses
 4. Anatomical vs. Functional Categories
 5. Overlap of categories
 6. Right vs. Left
 7. Expanded Hierarchy (The Ophthalmology Template for ICD-11)
 8. Primary Health Care Usages
 9. Timeline

5. 第4回眼科対面会議: 2010年5月2日 6:30-8:30am

米国フロリダ州フォート・ロダーデール市 Broward Convention Center

via Conference Call: Dr. Robert Jakob (WHO)

1. ICD-11 alpha 眼科の最終構造(Hierarchy)の決定
2. Overlaps Issues
 1. Multiple parenting:
 - Diabetic retinopathy
 - Grave's ophthalmopathy
 2. Congenital malformations (Chapter 17)
 3. Oncology
 4. Trauma

6. 第5回眼科対面会議: 2010年6月7日 8:00~10:00

ドイツ国ベルリン International Convention Center

via Skype: Dr. Robert Jakob (WHO)

1. i-CAT システムの操作デモ
2. Disorder of Visual Functioning の概略の決定
3. ICD-11 の Coding Conflict について眼科 TAG から以下の提言を行う。

The TAG for Ophthalmology strongly recommends that the WHO develop uniform guidelines about the preferred resolution of coding conflicts for the entire ICD and that allocation of health resources should be a primary consideration in deciding in which chapter entities should be coded...

7. i-CAMP-2 および RSG 会議: 2010年9月27日~10月1日

スイス国ジュネーブ WHO 本部

眼科 TAG 代表: 柏井 聡、August Colenbrander 参加

8. 第6回眼科 TAG 対面会議: 2010年10月17日 15:00~17:00

米国イリノイ州シカゴ: Hyatt Regency McCormick Place

合意事項

1. 2011年6月ジュネーブで開催予定の欧州眼科学会(SOE)-米国眼科アカデミー(AAO)合同学会で眼科 ICD-11 β 版を WHO の協力で公開する。
2. 2010年12月中に各作業班(Working Groups)は、ICD-11 α の眼科の章のそれぞれの担当領域の構造(Hierarchy)を提案した構造に訂正する。
4. 2011年3月中に定義を中心に Content Model の最小限の必要事項 1. Title, 2. Classification properties, 3. Definition/Terms if necessary, 4. Body structure, 5. Temporal profiles (if applicable), and 6. Severity を入力する。

伝統医学の ICD-11 への導入に向けた最近の動向について

慶応義塾大学漢方医学センター長
渡辺 賢治

1. これまでの動き

- ICD-11 への改訂に関する議論をとりまとめる WHO の改訂運営会議 (Revision Steering Group: RSG) の下に伝統医学に関する分野別専門部会 (Technical Advisory Group on Traditional Medicine : TAG-TM) が所属しており (別添参照)、この部会を中心に伝統医学の ICD-11 への導入に関する議論が進められている。
- TAG-TM に対して助言を行う PAG (Project Advisory Group) は、12 名の委員より構成され、うち 2 名が日本人の専門家。2010 年 5 月に第 1 回 PAG 及び TAG 対面会議が開催された。

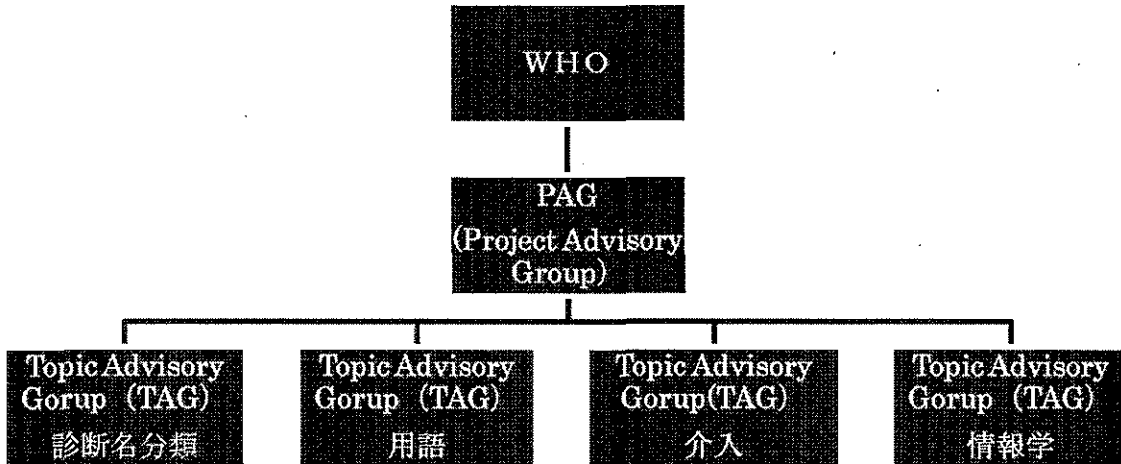
2. 今後の予定

- 本年 12 月に第 2 回 PAG 及び TAG 対面会議を東京で開催し、パターン (「証」) と診断に関するコンテンツモデルの骨格について検討する。治療に関するコンテンツモデルは現在作成中。
- 2011 年 5 月までに、パターン (「証」) と診断及び治療に関するコンテンツモデルへの入力を終了し、ICD-11 第 23 章に導入されることを前提とした α ドラフトを完成させる。
- 2014 年 5 月までに、フィールド試験等を通して、実践的な知見を集め、ICD-11 の一部として分類を完成させる。

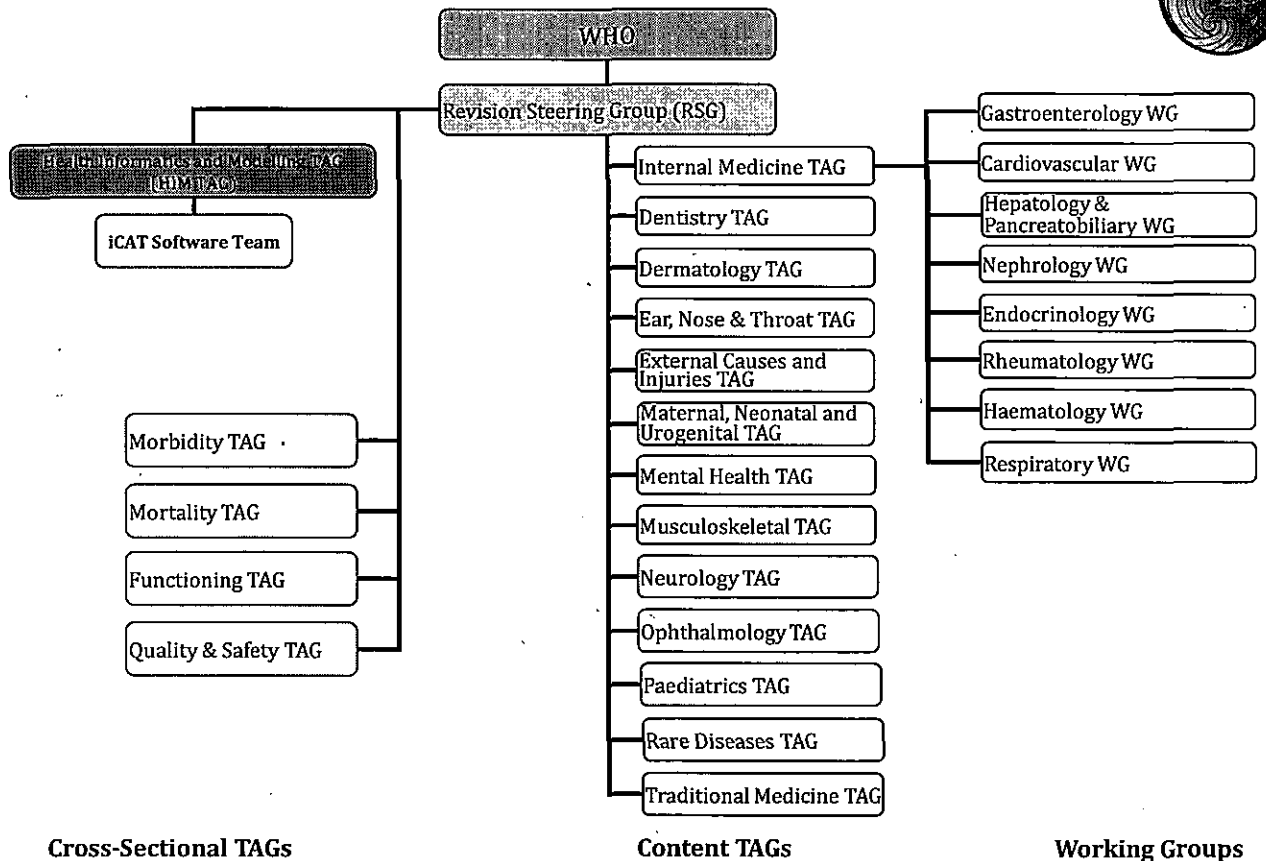
(参考) 今後予定されている会合

期日	場所	議題
2010.11	Uppsala	薬物動態、治療について
2010.12	Tokyo	分類、定義等について / プレスリリース
2011.2	Manila	治療について
2011.3	Hong Kong	全体会合、 α ドラフトの完成

図 1 ICTM 会議検討組織



ICD Revision Organizational Structure



皮膚科 TAG の活動報告について

統計分科会疾病、傷害及び死因分類専門委員

日本医科大学 幸野 健

皮膚科領域においては、web の iCAT ホームページ所載の編集システムを用いて、各国委員により積極的に ICD-11 アルファ版の改定作業が行われている。本年度は悪性腫瘍（特に悪性黒色腫と基底細胞癌）、リンパ腫、皮膚感染症の部分の改定が行われ、他領域との連携も図られている。国際委員によるアルファ版について年内に日本皮膚科学会理事会委員に意見を求め、国際委員に報告の予定である。また、来年 5 月にソウルで行われる World Congress of Dermatology において各国委員が研究会をもつ予定となっており、アルファ版に関する調整が行われる予定である。

外因 TAG の活動報告について

統計分科会疾病、傷害及び死因分類専門委員

市立堺病院 横田 順一朗

(日本救急医学会理事)

(日本外傷学会代表理事)

外因 TAG のメーリングリストでは External cause (XX 章相当) の一部について討議が行われている。外傷疫学上の課題が中心である。しかし、XIX 章にあたる外因の影響(損傷の標記)については議論の対象とはなっていない。

外因 TAG 座長の Prof James Harrison (MD) には、行岡哲男国際協力員(外因 TAG メーリンググループ: 東京医科大学病院長) および西オーストラリア大学東平日出夫先生(2 年前より Dr. Harrison と接触)により、XIX 章の改訂に対する進捗状況を問い合わせているが、具体的な回答が得られていない。

以上の状況を鑑み、行岡国際協力員と協議の結果、XIX 章に関しては日本救急医学会で進めてきた研究成果を直接 Prof James Harrison に提言するか、または別に外傷の TAG 設立を要請した方がよいのではないかとのことになった。

現在、日本救急医学会 ICD 改訂改正検討特別委員で ICD-10/AIS2008 のマッピングテーブルを基に改定案の策定を進めている。近々、まとまる予定である。

Neoplasm TAG 第 1 回 Meeting 報告

2010 /9/ 13 PM~9 /14 AM & PM (9/14PM は欠席) @ IARC Lyon, France

議長 Max Parkin (イギリス・元 IARC 部長)、事務局 : Mary Heanue (IARC)
 メンバー Ulrich Vogel (ドイツ)、Raja C. Dash (アメリカ)、Luis Eduardo Bravo
 (コロンビア)、Pam Groenwald (南アフリカ)、西本寛 (日本) 出席
 April Fritz (アメリカ)、Leslie Sobin (アメリカ)、Elaine Jaffe (アメリカ)、
 Theo Vos (オーストラリア) 電話会議に参加
 Brian Osullivan (カナダ) 不参加

- ★ ICD-11 Revision Process および Neoplasm TAG の説明 (Robert Jakob : WHO)
- ★ Neoplasm TAG としての基本方針として、
ICD-O と bluebook をベースに検討を進めていくこととする。
- ★ ICD-O、WHO Blue Book の説明 (Max Parkin)
原則的には、局在、組織型、性状 (良性/悪性) の 3 要素を中心に分類していく。
- ★内科 TAG の Hematology WG からの血液腫瘍の体系についての提案を説明 (Elaine Jaffe)
・ ICD-10 の Update (2008) を元にした形で再調整した上で、再提案
→ Jaffe を中心に形成される WG (Fritz, Harold Stein, Vardiman を加えて) で議論
- ★皮膚 TAG からの Melanoma に関する提案
- ★内科 TAG 肝臓疾患グループからのウィルス性肝炎に続発する肝細胞癌コードの提案
- ★内科 TAG 消化管グループからの胃食道接合部癌に関する提案
- ★眼科 TAG からの内眼腫瘍に関する提案
 - ◆ 他 TAG からの提案は、WG を結成して作業。適宜、電話会議を開催し合意形成。

★Neoplasm TAG としての提案

- 胆管・膵境界部の腫瘍に関する特別なコードの新設
- 移植臓器における腫瘍の扱い
- 異所性甲状腺腫瘍の扱い
- 良性あるいは性状不詳の腫瘍における部位の分類と悪性腫瘍の部位の一致の再評価
- 第 XXI 章 (Z コード) に関する再評価

次の段階では

Workplan を作成して承認した上で、ICD 改訂に関する提案を TAG として行う。

全体のコード体系が Fix されていない現状では、Neoplasm TAG としての対応は難しい部分が多いが、臓器別でない、横断的な TAG という特性を発揮することが望まれていると感じられた。

(文責 : 西本)